

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成21年 10月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	0170501415
法人名	(有) ケアワークス
事業所名	グループホーム はまなすの家
所在地	〒062-0001 豊平区美園1条1丁目5-17 (電話) 011-825-9062

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年9月2日	評価確定日	平成21年10月1日

【情報提供票より】 (21年7月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 2 月 25 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤13人, 非常勤 10人, 常勤換算14.7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000～55,000 円			
その他の経費(月額)	水道光熱費22,000円、冬季暖房費9,600円			
敷金	有(63,000～85,000 円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	○有(円) 有りの場合償却の有無 有 / ○無			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要(9月2日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	5 名		
要介護5	5 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.5 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	紺野整形外科、札幌中央病院、ときわ病院、ライラック病院、平成苑、大谷歯科
---------	--------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は平成14年からの開設で平成17年に当地に新築移転している。運営者は看護師の資格を持ち複数の介護事業を展開している。職員も看護師の有資格者が多く、医療面でのケアは充実している。事業所の運営推進会議は軌道に乗っており、地域住民との交流も多く、行事等でも連携し支えあう関係が築かれ、地域に馴染んだ事業所ということが伺い知ることが出来る。運営推進会議の議事録は、利用者の家族全員に送付して周知している。運営者は職員の育成にも力を注ぎ、職員の意欲を大切にし、積極的に内外の研修を受ける事ができる体制を整えている。運営者、管理者、職員とのコミュニケーションも良好で、一丸となって利用者のケアの質向上に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題項目である「地域密着型サービス」としての理念は独自の理念の中に地域住民との交流を具体的な言葉で盛り込んでおり改善されている。「プライバシーの確保の徹底」については、更なる努力を検討中である。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、項目を挙げて全職員が話し合いに参加し纏めている。評価で出された課題は運営者、管理者、職員が力を合わせて真摯に取り組み、日々のケアに活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、2ヶ月毎に開催され、事業所の運営状況や行事報告を行い活発な意見の交換がなされている。運営推進会議の議事録は、各利用者の家族に送付している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は家族の来訪時、挨拶や声かけを心がけ、気軽に意見、苦情、不安が表出されやすいように配慮している。運営推進会議の案内は、各利用者の家族に出しており、家族の参加者も多い。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所は町内会に加入し、地域行事への参加も多く、地域との連携が図られている。町内の祭りで子供の神輿が事業所に立ち寄り、利用者の手でさい銭箱にさい銭をいれ、事業所からはジュースを用意している。子供盆踊りでは町内会が、事業所の利用者のためにテーブルを用意してくれた。孤立することなく地域の一員として、双方向的な交流が行われている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は「家族的な環境と地域住民との交流で、その人らしさを支えたり支えあったりして利用者が尊厳のある自由な暮らしをおくれるよう」を独自の理念として掲げ、日々その実践に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所では、毎朝職員の申し送り時に理念を唱和し、各々が理念の書かれたカードを携帯して、日々、利用者との生活の中で振り返りながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業者は町内会に加入し、町内の行事には、利用者の状況を考慮しながら積極的に参加している。又、近くの専門学校と協力して地域のごみステーションの清掃を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、項目を挙げて職員全員が参加する仕組みで意見を出し合い纏めている。	○	前回の自己評価、外部評価で出された課題が、引き続き課題として残されており具体的な取り組みやその成果について更なる取り組みが期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、利用者の状況や行事の報告を行い活発な意見交換がされている。運営推進会議の案内は利用者家族全員に送られ、議事録も送付している。運営推進会議は地域との連携に活かされ、利用者のケアの質の向上に反映されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の管理者会議、豊平在宅ネットワーク協会に出席している。市の担当者には、事業所の運営や利用状況の報告などで連携を取り合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ホーム便りを季刊で発行し、事業所での暮らしぶりや、行事の様子をスナップ写真を載せて知らせしている。家族の事業所来訪時や電話などのほか、個々にも定期的な報告を行っている。家族が毎日来ている利用者もいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の来訪時には挨拶や声かけをして、気軽に話し合いが出来る雰囲気努め、意見、不満、苦情が表せるよう配慮している。重要事項説明書には外部の苦情申し立て機関を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は最小限にしている。ユニット間の合同の行事等で職員と利用者の馴染みの関係を構築しており、職員の異動がもたらすダメージを防ぐ配慮をしている。職員の利用者担当を決めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成に力を注いでおり、研修の年間計画を立て、外部研修や施設間伝達講習を行っている。事業所で認知症ケア勉強会を毎月行うなどして、職員の働きながらの学習を支援している。研修後は全体会議で報告し、研修報告と資料は全職員に回覧する仕組みを作っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の在宅ケアネットワークに加入し、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持っている。又、他の事業所と連携を取り合い事業所見学を行って、サービスの質の向上に活かしている。		
絵					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所を利用する前には家族、本人と見学や話し合いを持ち、事業所のラジオ体操、歌会などに一緒に参加してもらうなどして、事業所の雰囲気に馴染み安心し利用に繋がるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、生活の知恵や料理、昔の習慣など教わることも多く、お互いに支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との関わりの中で、表情、話し方、動作、生活歴などから、一人ひとりの思いや意向の把握に取り組んでいる。訪問時、高齢の利用者が、美しい声で何曲もの歌を披露し、職員や他の利用者の拍手に満面の笑みで応えていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者の担当制を取り入れ日々の暮らしを支援している。利用者の記録や状況把握から計画作成者を中心に管理者、ホーム長、担当職員で話し合い、家族の意向をも反映させ介護計画を作成している。作成された介護計画は家族の同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に見直しを行っているが、利用者に状況の変化があった場合にはその都度、担当者、ホーム長、施設長と家族が話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師の有資格者が、夜勤、専従も含めて8名おり、胃ろう、インシュリン注射等の支援を行っている。受診の送迎支援や緊急時に家族が居室に泊るなど、家族の希望にあわせ柔軟な対応をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医には、本人家族の希望に添って受診を支援している。協力医の往診は毎週、歯科医については必要に応じて往診を受けている。事業所では関わる医療機関には利用者の看護・介護報告書を提出している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所では終末期に向けた対応指針を作成しており、入居時に話合っている。又、終末期には出来るだけ早い段階から、医師を交え家族、本人と話し合いを持ち、同意書を交わし、全員で方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りを傷つけることのない言葉使いや対応を心がけている。共有空間に個人名の入った記録ファイルが置かれているため、部外者には目に付きやすい。	○	個人記録ファイルはスタッフルームするなどの配慮が期待される。また、共有空間で記録する時も部外者の目に付かない配慮と工夫が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所では大まかな生活の流れはあるが、一人ひとりのペースや希望を大切にして暮らしを支援し、安心して日々ゆったりと過ごす工夫と取り組みをしている。ベットから転落しやすい利用者にはベットを使用しないよう配慮され、安全の確保に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者の力量に応じて野菜の下こしらえ、テーブル拭き、食器拭きなどを共に行っている。食事中は音楽を流し、楽しい雰囲気の中で食べることが出来るよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を目途に利用者の体調や希望に添って入浴を支援している。入浴剤を取り替えて入浴を楽しむ工夫をしたり、入浴日をユニット間で変えて入浴介助の職員を2人体制にする取り組みもしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の力量に応じて、役割や気晴らしに繋がる場面作りを工夫している。居間には利用者の作品が飾られている。歌の好きな利用者の一人が、美しい声で何曲も姿勢を正して歌い、職員や他の利用者の大きな拍手を得ていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員は、利用者の体調やその日の状態を考慮しながら声をかけ希望に応じて散歩や近隣スーパーへの買物に出かけている。事業所では、季節ごとの外出行事も多く、利用者の家に閉じこもらない支援に取り組んでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関は鍵をかけていない。夜間は防犯上施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所では消防署の協力を得て、年2回防災・避難訓練を行っている。連絡網を作成し、非常持ち出し袋を準備し、定期的にチェックしているが一人体制の夜間を想定した訓練はしていない。	○	運営推進会議などを通して、防災・避難訓練に地域の人々の参加を呼びかけ、夜間の一人体制を想定した訓練も含めた協力関係を体制化することが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録で、食事量、水分摂取量をチェックし、一人ひとりに合わせた栄養バランスやカロリー計算のされた食事の支援をしている。きざみ食、流動食、糖尿病食、胃ろうなど医師の指示に従い、一人ひとりに応じて柔軟な対応を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく広々としており、全居室がキッチンやスタッフルームから見える配置で職員の動きを配慮した設計となっている。家庭的な雰囲気の装飾が随所にみられ、個室には思い思いの品が飾られている。畳のベンチのあるコーナーでは洗濯物のたたみができるなど、工夫がみられる共有空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や仏壇、敷物などが持ち込まれ、花や家族の写真を飾ったりして自由に寛いで過ごすことの出来る居室空間となっている。		

※  は、重点項目。